

2021年度 特定行為研修シンポジウム

特定行為研修受講支援と修了者の活用

2022年2月16日(水)

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院

副院長(兼)看護部長 中村 美穂

—庄内2次医療圏—

日本海総合病院



日本海八幡クリニック



【人口】(R3.10)

- 山形県 1,055,398人
- 庄内地域 259,610人
- 酒田市 98,964人

【高齢化率】(R3.10)

- 全国 28.4%
- 山形県 33.4%
- 庄内地域 35.6%



日本海酒田
リハビリテーション病院

日本海総合病院 概要

【概要】（令和2年度実績）

- ・病床数 630床
- ・診療科数 27
- ・職員数 約1,000名

【入院患者数】

- ・延患者数 169,551人
- ・1日平均患者数 464.5人

【平均在院日数】 11.6日

【病床稼働率】 73.7%

【外来患者数】

- ・1日平均患者数 1272.8人

【救急外来】・延患者数 17,141人

【手術件数】・年間件数 5,333件

【各種指定】

救急告示病院、災害拠点病院
地域がん診療連携病院（高度型）
臨床研修病院、へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関
エイズ治療拠点病院、地域医療支援病院

【看護職員】（令和3年4月現在）

看護師《7:1看護配置》	632名	<small>（臨時・産休・育休含む）</small>
看護補助者《25:1補助者配置》	70名	（臨時）
看護クレーク	34名	（臨時）
保育士	1名	（臨時）
学生アルバイト	14名	
計	751名	

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

《基本理念》

- 1, 安心、信頼、高度な医療提供
- 2, 保険、医療、福祉の地域連携
- 3, 地域に貢献する病院経営

《看護部理念》

患者中心の心かよい合う温かな看護を提供します

地域医療連携推進法人 日本海ヘルスケアネット

- 「日本海ヘルスケアネット」は2018年4月に発足
山形県北庄内地域の10法人が参加する地域医療連携推進法人
(地域の3病院、地区医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会、
3つの社会福祉法人と1つの医療法人の計10法人が参加)
- 地域包括ケアシステムの構築を実現するための役割を
果たすべく設立された

理念

ここ庄内地域において急速に進む少子高齢化、過疎化の状況の中で、山形県が進める地域医療構想の実現を図り、**地域包括ケアシステムのモデルを構築**し、医療、介護、福祉等の切れ目ないサービスを、将来にわたって安定的に提供することを目指す。

当院の専門・認定看護師分野

専門看護師 がん看護 1名

認定看護師 12分野 20名

- 皮膚・排泄ケア ○感染管理
- 緩和ケア ○救急看護
- がん化学療法看護 ○集中ケア
- がん放射線療法看護
- 認知症看護 ○手術看護
- 摂食・嚥下障害看護
- 脳卒中リハビリテーション
- 慢性心不全看護

—B課程認定看護師教育機関研修中—

- ・糖尿病看護
- ・心不全看護

当院の特定認定看護師・特定看護師

- 特定認定看護師(特定行為研修を修了した認定看護師):4名
- 特定看護師(特定行為研修を修了した一般の看護師):2名

当院で実施している特定行為 18

経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置調整	創傷に対する陰圧閉鎖療法
侵襲的陽圧換気の設定の変更	創部ドレーンの抜去
人工呼吸器からの離脱	直接動脈穿刺法による採血
気管カニューレの交換	橈骨動脈ラインの確保
胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
膀胱ろうカテーテルの交換	脱水症状に対する輸液による補正
中心静脈カテーテルの抜去	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与
末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

特定認定看護師の特定行為と活動

○感染管理認定看護師 1名 【感染管理認定看護師専従】

- ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調節
- ・脱水症状に対する輸液による補正
- ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
- ・中心静脈カテーテルの抜去
- ・感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与

具体的な活動例

- ・外科回診への参加
- ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入患者への特定行為を実施
(現在、COVID-19対応を優先のため特定認定看護師としての活動は休止中)

特定認定看護師の特定行為と活動

○救急看護認定看護師 1名 【救急外来勤務(2交代勤務)】

- ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調節
- ・脱水症状に対する輸液による補正
- ・**気管カニューレの交換**
- ・**胃瘻カテーテル若しくは腸瘻カテーテル又は胃瘻ボタンの交換**
- ・**膀胱瘻カテーテルの交換**

具体的な活動例

- ・外来患者の胃瘻カテーテル、腸瘻カテーテル、膀胱瘻カテーテル、胃瘻ボタンの交換
- ・入院患者の気管カニューレ交換



特定認定看護師の特定行為と活動

○皮膚・排泄ケア認定看護師 1名 【病棟勤務(3交代勤務)】

- ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調節
- ・脱水症状に対する輸液による補正
- ・創部ドレーンの抜去
- ・創傷に対する陰圧閉鎖療法
- ・褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去



具体的な活動例(対象は入院患者)

- ・創部ドレーン抜去、創傷に対する陰圧閉鎖療法
- ・褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

特定認定看護師の特定行為と活動

○手術看護認定看護師 1名 【手術室勤務(夜間の呼出体制含む)】

術中麻酔管理領域パッケージ

- ・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
- ・脱水症状に対する輸液による補正
- ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
- ・侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ・人工呼吸器からの離脱
- ・直接動脈穿刺法による採血
- ・橈骨動脈ラインの確保
- ・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整



具体的な活動

- ・麻酔管理アシスタント業務

特定看護師の特定行為と活動

○手術室看護師 2名 【手術室勤務(夜間の呼出体制含む)】

術中麻酔管理領域パッケージ

- ・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
- ・脱水症状に対する輸液による補正
- ・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
- ・侵襲的陽圧換気の設定の変更
- ・人工呼吸器からの離脱
- ・直接動脈穿刺法による採血
- ・橈骨動脈ラインの確保
- ・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

具体的な活動

- ・麻酔管理アシスタント業務

特定行為研修の受講について

受講申請の方法

- ・エントリー制あるいは部署の師長推薦
- ・看護部長面談及び承認を受ける

受講支援

- ・身分保障・給与保障、学費・宿泊費・旅費は全額病院負担
- ・研修時間の確保
所属部署の師長へ勤務調整を指示

具体例

- ・術中麻酔管理領域受講の手術室看護師は勤務中に週5時間の研修時間を確保
- ・臨地実習は当院が協力施設となり自施設実習の環境整備

認定看護師の特定行為研修受講動機

- 患者へ還元できる地域活動
- 外来待ち時間短縮及び患者・家族の負担軽減（気管カニューレ等の交換）
- タイムリーな介入による重症化の防止
- 根拠のある説明による患者、家族の満足度向上
- スタッフ指導の実践による看護の質向上
- カテーテル関連の感染率を下げる



看護管理者として研修修了者に期待すること

・看護の質向上

- ・研修で得た知識をスタッフへ還元する
- ・共通科目で得た知識を活用したアセスメント力の指導

・医師不在時のタイムリーな対応

- ・患者の重症化防止と早期回復への支援
- ・患者、スタッフの時間的ロスの減少

・患者、家族と医師、看護師の橋渡し

・在宅、高齢者施設での高度な臨床実践能力の発揮

当院が指定研修機関となるまでの課題と背景

手術件数：年間約6000件前後

- ・ダヴィンチロボット支援手術の導入などに対して、手術室看護師の高度な実践能力が必要
- ・麻酔科医不足による手術への影響を最小限にすることが、当機構の大きな課題

課題

- ・認定看護師や特定看護師を目指したいが、家庭の事情で長期間の研修に参加できない看護師が多い
(当院の手術看護認定看護師もそのひとり)

指定研修機関への申請経緯について

指定研修機関立ち上げに取り組んだ期間: 2019年9月～2020年3月

・プロジェクトチームの立ち上げ

2019年11月30日: 東北厚生局に申請(術中麻酔管理領域)

2019年12月 : 東北厚生局による実地調査

2020年2月 : 審査・指定

2020年3月 : 第1回特定行為研修管理委員会開催
(特定行為研修受講者3名の承認)

2020年4月 : 特定行為指定研修機関の開校

指定研修機関としての現状

受講者：当院の職員に限定

年間受講者数：3名まで（指導医の麻酔科医が指導できる最大の人
数）

受講者数

2020年度：3名（手術室看護師）

研修機関：1年

業務内容：麻酔管理アシスタント

2021年度受講中：2名（手術室看護師）



特定行為研修受講中の職員

次年度以降も、継続的に研修修了者を育成予定

術中麻酔管理領域パッケージ研修を修了した 特定認定看護師・特定看護師の活動

麻酔管理アシスタント(3名)

- 全身麻酔による手術を受けた患者管理を麻酔科医と実践
- 患者担当制
- 1日1名～3名が活動
- 手術患者入室から退室まで担当

麻酔管理アシスタント業務について

○循環動態、呼吸状態が安定した患者の麻酔器のモニタリングを行う

患者の安全と麻酔科医の業務負担軽減

- 臨時の全身麻酔手術の申し込み時、速やかに患者状況の確認、手術の準備ができる
- 術前麻酔科診察の実施
(麻酔管理の交代が可能となり、術前の麻酔科診察を行うことができる)
- 麻酔科医の昼休憩時間の確保

麻酔管理アシスタント業務について

麻酔科医が、患者入室から手術終了後の病棟看護師への申し送りまで行うため、次の手術は、申し送りが終了してから開始となる。

導入前



導入後



麻酔管理アシスタントとの分業により次の手術開始時間が早くなる。

特定認定看護師・特定看護師の活動評価

- ・医師の同席なく特定行為を実施することにより、外来待ち時間、スタッフの時間的ロスが大幅に減少した
- ・タイムリーにデブリードマン、陰圧閉鎖療法を実施したことで、創の治癒が早まった
- ・緊急手術、臨時手術への対応が早くなった
- ・麻酔管理上のモニターアラームの理由、根拠をふまえての報告ができて、タイムリーに的確な指示を受け、実践することができる
- ・研修修了者からの丁寧な説明や相談対応により、患者・家族の病気や治療に対する理解が深まり、満足度が高くなった

課題

在宅、高齢者施設で高度な臨床実践能力が発揮できる体制を構築する

1. 日本海八幡クリニックの往診に同行し、その後単独訪問へ移行する
 - ・人工呼吸器装着患者の気管カニューレ交換
 - ・看護師ならではのきめ細かな対応による患者・家族の満足度の向上
 - ・医師の業務負担軽減
2. 日本海ヘルスケアネット参加施設間での人事交流
 - ・老人保健施設へ特定認定看護師の出向
(現在、出向期間1年、年間3名の出向)
3. 酒田市の離島(飛鳥)での活動
(離島のため医師不在、看護師2名在職)



課題

限られた看護師数の中でも活動ができる環境を作る
(現在、シフト勤務が難しい職員が増えている)

1. 所属部署の検討
2. 活動日の検討(認定活動日、特定行為を行う活動日の調整)

フォローアップ研修の体制作り

1. 外部研修中心のため、現状に即した研修体制を構築する

おわりに

- 日本海ヘルスケアネットは、地域包括ケアシステムの構築を実現するための役割を果たすべく設立された。急性期医療から在宅医療までを支え、質の高い看護・介護を提供するためのキーパーソンとなる、専門性の高い看護師の育成は、当機構の使命である。
- 特定行為研修を修了した看護師をはじめ、専門性の高い看護師の活躍が、結果的に医師の業務負担軽減にも繋がることを医師と共通認識し、今後も特定行為研修の受講を進めていく

ご清聴ありがとうございました

